

# 仏法領

ぶつぽうりょう

第72号

発行：真宗大谷派  
 念信寺  
 〒824-0202  
 福岡県京都郡みやこ町  
 犀川上高屋761  
 ☎ 0930-42-0329  
 Fax 0930-42-0502  
 ホームページ  
 nenshinji.org



(写真 大迫光浩)

## ご案内

### 皆作・永代経法要

6月30日(土)

〜7月2日(月) 昼・夜

勤行 浄土三部経

正信偈念仏和讃

法話 松月博宣師

(糸島海徳寺様)

住職

お誘い合わせご参詣ください

※詳しくは第4面をご覧ください

### 皆作について

この度の念信寺法要は皆作・永代経法要ということになっていきます。

皆作とは読んで字のごとく、皆がお米を作り終わりました、ということでしょう。

ところが、まことに不思議なことに代表的な国語辞典である「広辞苑」や「大辞林」をみても皆作という語は載っていない。だけでも真宗寺院では何事もないように皆作法要という言葉が使われている。心配することは無いでしょう。意味はチャンと通じているのでね。

日本のお百姓さんたちは二千年前から同じことを繰り返して毎年お米を作ってきた。米作の最初の段階の作業が終わると、身近な神仏に作業一段落の報告と、秋の実り多きをお願いした。鎮守の神様に対しては「さなばり」とか「おこもり」とかで祭りを催し、謝意を表した。身近な仏様に対しては、皆作法要として仏様に作業終了を伝え、謝意を表した。もっとも、真宗の教えが農村地域に染み渡ったのは約五百年前だろうから、皆作法要は比較的新しいといえると思う。(記 阿部正紀)



皆作法要は「無縁・虫供養(むえん・むしくよう)」とも言われてきました。浄土真宗のお寺では「永代経法要」などの名目で行うこともあるようです。

農作業は多くの生きもののいのちを奪う作業であり、そのため田植えを終えての法座を俗に「虫供養」と言い習わしてきたのでしょう。「無縁」とは、無量のご縁をいただいていることを「無縁」と言ったのでしょうか。

農作業が終わって単に骨休めするだけでなく、いのちを思いやる先人の奥ゆかしさが思われます。(住職)

## 総代、世話人さんが 代わりました

地区によって任期が違うので、一年で代わらない地区があります。よろしく願います。

### 地区世話人(敬称略)

伊良原 釜の河内	加藤 寿
伊良原 岩屋河内	小野秀典
伊良原 古賀団地	小野幸也
横瀬 龍毛	篠田トシ子
横瀬 龍毛	緒方操
横瀬 町方	正野和美
上木井	森原新蔵
下木井	奥 恒行
犬丸	江藤信行
内垣	大東勝俊
内垣	池田康郎
下本庄	内山三千男
上本庄	清水忠雄
上本庄	安藤茂美
松坂	有高健一
鏡畑	阿部和夫
上高屋	松尾石根
上高屋	緒方義則
上高屋	吉田昭治
上高屋	廣津友一郎
上高屋	寺方
上高屋	猿林・自在丸
上高屋	大坂
上高屋	古賀
上高屋	鶴田鶴子

### 総代 責任役員

白川和美
岩原正之
高尾美幸
黒瀬信敏

世話人の役割は、同朋新聞、法座の案内などの配布、本山納金の徴収、その他、お寺の諸行事や法要などの教化活動スタッフです。またお寺と門徒さんを取り次ぎます。会議は年間4回ほど開かれます。

総代は、住職の求めに応じてお寺の運営に関する全てのことを審議し承認する役割を担っています。また教化活動スタッフのリーダーを務めます。任期は3年です。ただし、重要事項は必ず世話人会議で審議されます。

総代・世話人会の課題は、過疎・高齢化のため、世話人を出せなくなった地区があること。反対に行橋・豊津、北九州・福岡など世話人による組織化ができていない地区の門徒さんが増えていることです。

また、一期だけで、世話人・総代が交代するため、多くの人にかかわってもらうという良い点がある反面、人材の確保が難しくなり、中長期の計画を立てにくい弱点があります。

以上の課題と共に、京都組(北九州・行橋・みやこ地区)門徒会と念信寺の門徒代表が連携できる組織づくりが必要です。



昨年6月の世話人会議

## 春のお彼岸

3月25〜27日

にぎにぎしく、しつとりと  
ありがたいご縁でした!

講師に祖父江佳乃さんをお迎えして3年、根強いファンがいて、先生をお待ちしています。

阿弥陀仏の願いに生きるとき、悲しみのなかにあっても力強く生きていける。高座から物語をとおしてやさしく語ってください。



### ステレオ装置を ご寄付いただきました



豊津在住のNTさんが  
手作りの大出力アンプと大  
口径スピーカーをご寄付く  
ださいました。

Nさんは水洗器具

メーカーの技術者で、  
最高の自信作だそうです。  
深く大変いい音  
が出ます。



スピーカーはフォステックスの20cm口径のフルレンジユニット、アンプはブリッジ接続のハイパワーアンプだそうです。

お荘厳とお給仕  
どんなおかざり(荘厳)をしていますか?  
お盆(初盆)

お盆は、亡き人を想う仏教行事です。亡き人の心につれ、仏さまの教えを聞く機会にしましょう。

亡き人はお浄土から常に私たちを護ってくれていて身近に願いを感ずることができるので、迎え火をたく必要はないと教えられています。

浄土真宗では、霊魂が現世に來たり、帰って行くとは考えません。ですから、迎え火、送り火をしませんし、お膳を供えることもしません。

お盆は、お内仏(仏壇)に内敷をかけます。夏用の涼しそうなものがよいでしょう。お供えは供箆にお華束という白い小餅をもるのが基本です。



お華束(餅・落雁)

また、初盆は本来お内仏をおかざりするだけでした。しかし、近年お供えなどが多くなり、別に棚を設ける場合が多いようです。その場合、例えば提灯は正式には切り子提灯を用います。



内敷(平常しない)

「八女仏壇」や「せがわ」など、仏壇屋さんには用意されているようです。



本年5月に新しく総代として  
さんが選任されましたのでご紹介いたします。

新総代 T M さんってどんなひと?

まず M さんというお名前から。見事なばかりの美しいお名前の持ち主です。写真をご覧いただきますと、名前だけでなく、実際にもりりしく頼りになること間違いなしの円熟味あふれる男性です。



T さんは昭和十六年生まれ、今年七十六歳とのこと。  
お住いは旧犀川下本庄区。

お父さんの代から同じ所に住んでおられるそうです。高尾家は元々下伊良原が在所で、現在ではダム湖に水没した所とのこと。

お仕事は、小倉の旧住友金属に定年まで勤められた由。初めの頃は小倉にお住いだったそうですが、後には犀川から通勤されたそうです。

現在もシルバー人材センターに登録されて、不定期的に仕事をなさっておられるとのこと。

地域的には下本庄区二十八日講の世話人をなさっていて、現在も活動を続けておられるとのこと。仏縁も豊かか

とお見受けいたしました。ご住職にとっても我々門徒一同にとっても頼りがいのある総代さんだと思われませう。  
なにとぞよろしくお願ひ申しあげます。  
(阿部正紀・記)



T さんは何事もきちんとして受けとめる方で、二十八日講の下本庄世話人を内山三千男さんにバトンタッチしたので、その後には何かお寺関係のお世話もしていただけたらと考えていました。

伴侶の N さんは念信寺婦人部はじめ町の福祉関係でも活躍で、美幸さんはそれを支えておられるご様子です。

今回、犀川谷プロック代表の総代をお引き受けいただき、今度は皆さんとお寺を誠実な人柄で支え、盛り立てていただければと念じています。  
(住職)

月命日お参りの日々

柏木主税 (法名 釋清道)

平成17年6月17日、京都東本願寺において得度式を受式、僧として入籍させて頂き、門徒さん宅にお参りするようになって、すでに13年になります。

推進員研修会での仏教の歴史等の研修、早朝お寺にてお経様を任職より学んで参りました。

最初は門徒さん宅でのお参りで間違わないように読誦するのが精一杯で、心の余裕はありませんでした。だんだん馴れてきましてからは、訪問の際、

門徒さんのお元気なお姿を拝見するとひと安心、お勤めの後の雑談も楽しみになりました。

浄土真宗の教

えであります阿弥陀仏の本願を信じる難しさ、真宗の目ざす真の幸福とはなど言葉は



簡単でありますが実現するには難しさを感じながら、仏教が今後も相続されることを願ひ、お経様を誦誦しお勤めをしておりませう。

私も74歳、身体が続く限り頑張りた

法務のお仕事ご苦労様です。前向きに明るく、ほぼ毎日、法務と農業に励んでおられる姿は立派です。また決して人の悪口や噂話はないですね。表面、うわべだけのお参りでなく、お参りする構え、準備ができている人は貴重だと思います。おっしゃる通りに、「本願を信ずる」とはどういうことなのでしょう。報恩講に「出講頂いたことのある田口弘先生のお言葉を紹介致します。  
(住職)

【田口弘先生の言葉】

私たちは、自分が正しく相手が悪いと思って生きていく。如來はその姿を悲しいと見て、そんな私たちを救おうと誓願を建てた。私たちが、その誓願に応えていける者になるかどうか。それが念仏者の仕事。

僧侶を志した時、住職が、「坊主になっても、お経の通りの生活ができなくてもいい。でもそのことに言い訳も、聞き直りもせず、すまない恥ずかしいと思える人間には誰でもなれるぞ」と。

また専修学院のN先生は、「お内仏に手を合わせ、お念仏申しなさい。念仏し、正氣に戻って、浄土に生まれたいと願ひながら、そうでない生活をしてしまった。申し訳ない、恥ずかしい」「そんな私の所にあらわれてくださった南無阿弥陀仏よ、ありがとう」と、いつもそこに立ち帰る。  
この事が願われていることだと、私はいただいている。

川柳 (続々編)

川柳も江戸と上方の二拠点を核に続いてきたようです。まずは昭和初期の古典的な二句をご紹介いたします。

- ◎命まで賭けた女で これかいな 松江海里(仕出し屋)
- ◎このご恩は忘れませんと寄り付かず 大田佳凡(医者)

何とも味わい深い句と思います。以下いつも通りの作品です。

- ◎しあわせはなるものでなく気づくこと
- ◎まずいとは言えず「初めて食べる味」
- ◎仏壇のローソク借りる誕生会
- ◎飲むとまだ将来語る夫です
- ◎他人だと思えば妻(夫) ありがたい
- ◎皺(しわ)、ふえて生命線も手首まで
- ◎夫婦して風呂めし済んでまだ六時
- ◎ボケた義父残して逝ったボケた義母
- ◎お迎えが来ても居留守を使いたい
- ◎遺産分け残った母をゆずり合い
- ◎本性が出ると言うからボケられず
- ◎骨が減り知人も減るが口減らず
- ◎「アレどこだ?」「アレはあそこにソレですよ」
- ◎リモコンを子機と間違ひ話す祖母
- ◎目も耳もわるくなつたが勤は冴え
- ◎シルバーと呼ばれる私は金が好き

梅雨から酷暑の夏へと向かいます。お元気に!

川柳好きのおいさん



皆作・永代経法要のご案内

梅雨の時節となりました。皆さまいかがお過ごしですか？御法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

日時	六月三十日(土)	午後一時半～	午後七時半～
日時	六月三十日(土)	法話	法話
七月一日(日)	法話	法話	法話
二日(月)	法話		

講師

松月 博宣 先生 六月三十日～七月一日昼席

糸島市 海徳寺前任職

\*本願寺派の布教使の重鎮として全国区の活躍をなされています。



松月先生のコメント

人は環境に育てられます。私たちは「仏さまのお話」を聞くことのできる環境に恵まれました。次の世代に同じ環境を整えていくことも「永代経」を勤めお参りする意味だと思います。

法座予定

二〇一八年

盆法要

八月十六(木)～十七日(金)

\*上高屋地区のみのご案内です。

秋彼岸法要

九月二十八(金)～三十日(日)

講師 瓜生 崇師

(滋賀県東近江市 玄照寺住職 日本脱カルト協会理事 響流書房代表)

三十日(日) 昼 落語会

ご正忌・報恩講

十一月二十一(水)～二十四日(土)

藤澤 信照 師

(滋賀県東近江市浄光寺住職 本願寺派行信校講師)

お寺の活動

3年ごとの推進員研修が催されます

同朋の会推進講座開催のご案内  
一人の心を育てるには... 心を育てるには... 心を育てるには...

講座名	開催日時	会場
第1回	2018年6月23日(土) 13時～17時	念信寺
第2回	2018年7月 5日(火) 13時～17時	念信寺
第3回	2018年7月22日(日) 13時～17時	念信寺

氏名	年齢	性別	住所



春彼岸、最後の日の講師は浄邦寺、加来知之先生



京都組同朋のつどい  
4月10日会場浄喜寺  
講師 沙加戸弘先生



東本願寺仏教講座  
5月9日、全3回

昨年の念信寺皆作法要



5月17日、教区門徒会研修会、京都祖はバスで参加



6月7日京都組門徒会 常任委員会



4月16日、組婦人役員協議会



平林家上げ仏事



北九州緒方家上げ仏事

あとがき

仏壇終いや、認知症の親の介護の話、元氣だった人のご法事など、過ぎゆく時の流れ、無常を感じることも多い日々。寺報編集作業の合間、夜中、食堂でスイカの種を見て、ふと子どもの頃の光景を思い出しました。父と種を競い合うかのように笑いながら勢いよく口から出していました。両親も若かった。とても親密な時間でした。色即是空、空即是色。そのとおりですが、なんとも愛おしい。ナムアマミダブツ



梅の木の匂いに癒やされる季節です。念信寺の境内に三本の梅の木があります。中でも最もお気に入り、は、下方にぼっかりと大きな穴が空いているにも拘わらず、上方では何事もないうように大きい実をつける古木です。かなり健気です。今年も少しですが綺麗で大きい見事な実がなりました。早朝の日課は、取り残した梅の実を拾うことです。梅の木に人生を教わっています。

